

中津市民病院化学療法レジメン

【レジメンNo】H-72

申請日	2025/7/2	承認日	委員長	印
レジメン登録日	2025/7/14	仮承認日	承認者	印

Epcoritamab 4～9コース目	病名	DLBCL、濾胞性リンパ腫	血液内 科	医師名	Dr
対象	再発・難治性の大細胞B細胞リンパ腫と濾胞性リンパ腫				

薬剤商品名 (一般名)	投与量 (mg/m ² 等)	投与方法 div. iv. po等	投与スケジュール(日)													
			1	4	5	8	10	11	15	20	25	30				
エプキンリ (エプコリタマブ)	48mg/Body	sc	○						○							
プレドニゾン錠 (プレド ゾン)	100mg/Body	div or po	○	○	○	○			○	○	○	○				
投与間隔・休薬期間等：28日＝1コース			← 1コース →													
6コースまで																
その後、【H-73】エプコリタマブ 10コース目以降へ移行する																
プレドニゾンはエプコリタマブ治療日を含め4日間投与する																

【投与処方例（前投薬など）】

Day1. 15

レスタミンコーワ錠10mg 5錠

カロナール500mg 2錠

】 /po.エプキンリ投与60分前

Day2～4. 16～18

プレドニゾン錠5mg 20錠(分1 朝食後)

- Day1. 15
- ① メインキープ【緑】 生理食塩液250mL /div
 - ② メイン【赤-1】 生理食塩液500mL /div 2時間

- ③ メイン【赤-2】 生理食塩液100mL＋水溶性プレドニン10A /div 30分 (エプキンリ投与60分前)
- ④ エプキンリ /皮下注 5分(大腿部、腹部周囲の推奨範囲に)
- 終了後、メインキープの生理食塩液をすべて投与する

【投与にあたって】

2コース目以降はの治療前日、当日の水分対応は医師の判断とする

治療開始時、治療期間中にICANS評価(ICEスコア)を毎回看護師が行い、Grade評価に応じて医師に連絡を行うこと。

【検査等確認事項】

感染に関すること 本レジメン開始前にサイトメガロウイルス血清検査を実施

【注意すること】

エプキンリは、大腿部、腹部に左右交互に投与すること。

感染症への対策として、带状疱疹の予防で抗ウイルス薬・PCP予防でST合剤の内服を行う

※再発性ヘルペスウイルス感染症、過去のヘルペス感染症既往歴、好中球減少症及び低CD4+細胞数(200個/ μ L未満)の場合はアシクロビル等で予防投与を行う。

※高リスク患者(低CD4+細胞数(350個/ μ L未満)は、PCP予防としてSTの隔日投与で予防投与を行う。

【予定投与に施行できなかったまたは休薬後の再投与量】

最終投与量

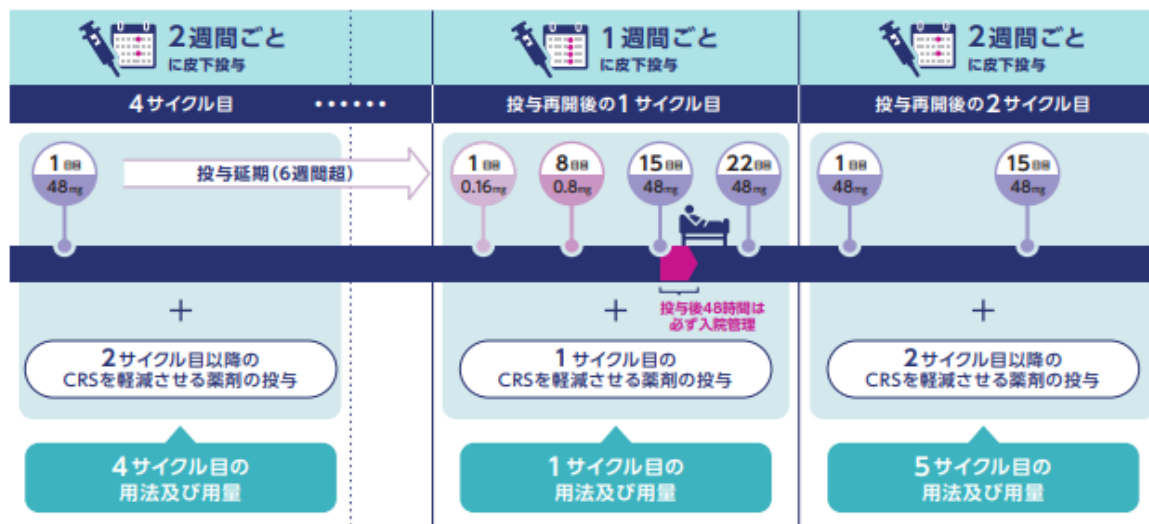
48mg

投与間隔が6週間を超えた場合

は、Epcoritamab 1コース目に戻して投与を開始すること。

その後の予定は、次の投与コース(投与を延期したコースの次の投与コース)の1日目から投与を継続すること

参考資料:エプキンリ適正使用ガイドより抜粋



※投与再開後の1サイクル目の各投与後には入院管理を検討し、少なくとも投与再開後の1サイクル目の初回の48mg投与後48時間は必ず入院管理としてください。